

乳幼児を持つ共働き夫婦の仕事と家庭の両立と情報機器利用実態

Survey on Information Communication Technology Use and Work-Life Balance among
Working Parents with Infants

久保隅綾 KUBOSUMI, Aya 橋元良明 HASHIMOTO, Yoshiaki
大野志郎 OHNO, Shiroh

目次

0. 調査の概要

0.1 調査の目的

0.2 方法

1. 家事育児分担の実態とワーク・ライフ・バランス

1.1 家事育児分担割合

1.2 家事育児分担納得度

1.3 仕事と家庭の両立に関する態度と意識（ワーク・ファミリー・コンフリクト）

1.3.1 ワーク・ファミリー・コンフリクト尺度の定義および質問項目

1.3.2 ワーク・ファミリー・コンフリクト項目の回答結果

2. 乳幼児を持つ共働き父母の家事育児、趣味に関する情報機器およびネット利用実態

2.1 情報機器利用

2.2 趣味におけるネット利用時間

2.3 家事育児に関するネット利用

2.4 子どもの育児に関する情報入手および相談先

3. 仕事と情報機器およびネット利用

3.1 仕事における情報機器利用

3.2 仕事におけるネット利用時間

3.3 所定外労働と ICT 利用

3.4 工作中的私的 ICT 利用

3.5 ICT に対する考えと態度

<補足資料>

回答者の属性および質問票と単純集計結果については、本紀要に同時に掲載されている橋元・大野・久保隅「乳幼児期における情報機器利用の実態」を参照願いたい。

久保隅綾 東京大学大学院学際情報学府博士課程
橋元良明 東京大学大学院情報学環
大野志郎 立教女学院短期大学現代コミュニケーション学科

本報告のベースとなる調査は、株式会社 KDDI 総合研究所と東京大学大学院情報学環橋元研究室の共同研究の一環として実施されたものであり、本報告は当該共同研究の成果の一部である。また、本報告は久保隅綾が執筆した。

0. 調査の概要

0.1 調査の目的

共働き世帯の増加、“育メン”の言葉に象徴されるような男性の家庭参画の要請、長時間労働の是正や働き方改革といった労働環境を取り巻く潮流は、企業によるワーク・ライフ・バランス施策の展開を加速させている。仕事と家庭の両立支援は日本の労働問題における重要な論点の一つであることは論を俟たない。勤労者の仕事と生活の両立支援においては、テレワークなど時空間を問わない働き方やコミュニケーションを可能にする情報機器や、インターネットといった情報通信技術（以下 ICT）の存在がそれを支えている。ワーク・ライフ・バランス施策や勤労者個人の家庭および仕事生活の営みにおいて、切っても切り離せない存在である ICT は、仕事と家庭の両立にとって、どのような意味を持つのだろうか。

そこで、勤労者の仕事生活と家庭生活に焦点を当て、ICT 利用が彼らの仕事や家事育児などの日常の生活にどのように利用され、組み込まれているのかについて、(1)家事育児など家庭生活における情報機器およびネット利用の実態、(2)家事育児分担実態および意識、(3)仕事や職場での情報機器およびネット利用実態を明らかにすることを目的に、特に、仕事と家庭の切り盛りに奔走していると想定される未就学児を持つ共働きの母親、父親を対象に調査を実施した。

なお、本稿の調査は、本紀要に同時に掲載される橋元・大野・久保隅「乳幼児期における情報機器利用の実態」と同一の調査に基づいている。本稿の単純集計値は前記の論文を参照願いたい。

0.2 方法

(1) 調査対象：

第一子が 0 歳から 6 歳以下の未就学児をもつ共働き世帯の母親および父親。父親においては事前のスクリーニングテストにおいて家事育児参画度(4 件法)でトップ 2(「かなり関わっている」「ある程度関わっている」と答えた人)。

年齢：20 歳から 49 歳

居住地域：関東圏（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県）

その他の条件：就業形態として、父親はフルタイムであること、母親はフルタイム・パート・アルバイト・派遣労働のいずれかであること。職種として、学生、調査・広告代理業は対象から除外した。

なお、本報告では、父親のスクリーニング条件が母親と異なるため、父親データと母親データそれぞれを分けて分析を行った。父親調査および母親調査はいずれも同じ質問項目

である。また、本調査結果に関して父親群と母親群の差に言及している箇所があるが、両群の標本抽出においてはスクリーニング条件が異なるので、差異は統計的根拠に基づくものではない。

(2)調査の方法：オンラインアンケート調査。標本母集団は株式会社マクロミルの登録モニター。

(3)有効回答数：母親調査 824 票、父親調査 412 票、計 1,236 票（スクリーニング条件が異なるため、父母合算したデータは分析しない）

(4)調査期間：2017年9月27日～9月28日（スクリーニング調査は9月21日）

1. 家事育児分担の実態と仕事と家庭の両立に対する意識

1.1 家事育児分担割合

本章では未就学児を持つ共働き夫婦の家事育児分担や仕事と家庭の両立に対する態度や意識を概観する。配偶者との家事および育児分担それぞれについて分担している度合いを100%として、その分担割合をパーセンテージで回答を求めた。表 1.1.1 に父親回答および母親回答による本人の家事分担割合を職位別、生活満足度別¹、夫婦関係満足度別²に平均値を算出し、検定を行った結果を示す。

父親本人の家事分担割合は 33.7%、母親は 81.5%であった。母親回答による家事分担割合を 100%から引いたものが配偶者（母親の場合、配偶者である父親）の家事分担割合に該当するが、その分担割合は 18.5%となる。本調査では比較的家事育児参画度の高い父親をスクリーニングしているため、家事分担割合は一般的な父親と比較して高いといえよう。

職位別では、父親回答はフルタイム管理職以上およびフルタイム一般職、母親回答はフルタイム管理職以上、フルタイム一般職、パートタイム・アルバイトの3群に分け、分析を行った。職位別家事分担割合の平均は、父親回答においてフルタイム管理職以上 34.3%、フルタイム一般職 33.5%と、若干程度ではあるが職位が高いほど家事分担割合が高く、有意差はみられなかった。母親回答では、フルタイム管理職以上 77.9%、フルタイム一般 79.8%、パートタイム・アルバイト 84.2%であり、職位が上がるほど家事分担割合が低くなり、危険率 0.1%水準で有意な関連があった。父親では職位は家事分担に関連はないものの、母親の場合、仕事をどの程度しているかが、家事分担割合を決めていると考えられる。

生活満足度別に見た場合、父親は高群、低群ともに分担割合は同程度で、両群の間に有意差はみられなかった。母親回答では高群 76.0%、低群 83.5%と満足度高群で分担割合が 7.5 ポイント低く、両者間で 0.1%水準の有意差がみられた。母親の場合、本人の家事分担割合が高いと生活満足度が低い傾向があるといえよう。

同様に夫婦関係満足度では、父親回答では夫婦関係満足度高群の家事分担割合が 32.4%、低群 37.5%で両者間に約 5 ポイントの差があり、5%水準で有意な関連があった。母親では夫婦関係満足度高群の家事分担割合は 79.1%、低群 86.5%と両者間で 7.4 ポイントの差があり、0.1%水準で有意な結果となった。父親、母親ともに家事分担割合が低いほど、夫婦関係満足度が高いといえよう。

¹ 「あなたはどの程度今の生活や人間関係に満足していますか。それぞれあてはまるものをお選びください。今の生活に・・・」という質問文に対し、「満足している」「やや満足している」「あまり満足していない」「満足していない」の4件法で回答を求め、「満足している」「やや満足している」を満足度高群、「あまり満足していない」「満足していない」を満足度低群に分別し、分析を行った。

² 生活満足度同様に、「あなたはどの程度今の生活や人間関係に満足していますか。それぞれあてはまるものをお選びください。配偶者との関係に・・・」という質問文に対し、4件法で回答を求め、「満足している」「やや満足している」を満足度高群、「あまり満足していない」「満足していない」を満足度低群に分別し、分析を行った。

表 1.1.1 本人家事分担割合(単位：%)

		家事分担度				
		平均 (%)	SD	検定	N	
父全体		33.7	18.20		412	
父職位	フルタイム管理職以上	34.3	21.56	t(410.00)=0.40	n. s.	
	フルタイム一般職	33.5	17.18			
母全体		81.5	13.82		824	
母職位	フルタイム管理職以上	77.9	17.87	F(2, 821)=10.80	a	
	フルタイム一般職	79.8	14.33			a ***
	パートタイム・アルバイト	84.2	12.41			a
父生活満足度	高	33.1	17.38	t(196.03)=-0.93	n. s.	
	低	35.0	20.07			
母生活満足度	高	79.9	13.93	t(399.70)=-6.35	***	
	低	86.5	12.30			
父夫婦関係満足度	高	32.4	16.39	t(410.00)=-2.44	*	
	低	37.5	22.51			
母夫婦関係満足度	高	79.1	13.90	t(822.00)=-7.39	***	
	低	86.5	12.26			

※検定について、2群間の判定はt検定、3群間の判定はTukey検定による。*** p<.001, * p<.05, n. s. 有意差なし。

※検定内のアルファベット符号は、多重比較の結果、異符号間に5%水準の有意差があることを示す。

表 1.1.2 本人育児分担割合(単位：%)

		育児分担度				
		平均 (%)	SD	検定	N	
父全体		31.8	14.68		412	
父職位	フルタイム管理職以上	33.2	18.15	t(410.00)=1.05	n. s.	
	フルタイム一般職	31.4	13.56			
母全体		77.9	13.13		824	
母職位	フルタイム管理職以上	69.4	15.38	F(2, 821)=6.48	a	
	フルタイム一般職	77.2	13.54			b **
	パートタイム・アルバイト	79.4	12.19			b
父生活満足度	高	31.8	13.10	t(410.00)=-0.03	n. s.	
	低	31.8	18.01			
母生活満足度	高	76.0	12.92	t(377.74)=-7.62	***	
	低	83.5	12.11			
父夫婦関係満足度	高	31.7	12.92	t(410.00)=-0.23	n. s.	
	低	32.1	19.13			
母夫婦関係満足度	高	75.1	12.60	t(542.17)=-9.34	***	
	低	83.7	12.30			

※検定について、2群間の判定はt検定、3群間の判定はTukey検定による。*** p<.001, ** p<.01, * p<.05, n. s. 有意差なし。

※検定内のアルファベット符号は、多重比較の結果、異符号間に5%水準の有意差があることを示す。

つづいて、表 1.1.2 に本人の育児分担割合の結果を示す。父親全体の育児分担割合は

31.8%、母親全体は77.9%であり、家事分担より育児分担の方が父親の分担割合が低い。国立社会保障・人口問題研究所（2016）によれば、年齢や共働きに関わらない父親全体の家事育児の夫の分担割合は家事分担が14.9%、育児分担が20.2%であり、本調査データとはサンプル条件が異なるため厳密な比較はできないが、**本父親調査対象者は育児よりも家事の分担割合が高いことが特徴的である**といえよう。

職位別では、父親回答では家事分担割合同様に有意差はみられなかった。**母親回答結果では家事分担割合同様に1%水準で有意差がみられ、職位が上がるほど育児分担割合が低かった。**

生活満足度別および夫婦関係満足度別では、父親回答ではいずれも高群および低群間の分担割合に差異はみられなかった。母親回答では生活満足度別で有意差はみられなかったが、夫婦関係満足度別では**0.1%水準で有意な差があり、家事分担同様に育児分担の割合が低いほど、夫婦関係満足度が高い傾向がある**といえよう。総じて家事育児分担割合の程度は、父親、母親ともに夫婦関係満足度の高低に影響を及ぼしており、**配偶者の分担が多いと夫婦関係満足度にプラスの効果をもたらしている結果**となった。

1.2 家事育児分担における納得度

本人および配偶者の家事育児分担の納得度について、質問文「あなたの配偶者との、お互いの仕事・家事育児の分担方法や割合などに関して、あなたは納得していますか。また、あなたの配偶者は納得していると思いますか。それぞれもっともあてはまるものをお選びください。あなたは・・・(本人納得度)、配偶者は・・・(配偶者納得度)」にて、それぞれ4件法で回答を求めた。回答結果を「納得している」「どちらかといえば納得している」を納得している群、「どちらかといえば納得していない」「納得していない」を納得していない群に分け、その割合を職位別、生活満足度別、夫婦関係満足度別にクロス集計し、 χ^2 検定を行った。本人の家事育児分担における納得度の結果を表1.2.1に示す。

父親全体の本人の家事育児分担納得度は83.0%、母親全体は64.9%であり、家事育児分担納得度は、実質的な分担割合が大きい母親の納得度が総じて低い様子がうかがえる。

職位別結果では、父親回答がフルタイム管理職以上90.0%、フルタイム一般職81.1%と約9ポイントの差があり、5%水準で有意にフルタイム管理職以上の納得度が高かった。**父親フルタイム管理職以上では、家事分担割合も、フルタイム一般職より高いが、納得度も高い結果は興味深い。**翻って母親回答による職位別の家事育児分担納得度については、職位が上がるほど納得度が高いものの、有意差はみられなかった。**総じて、職位が高く仕事での負荷が高い状況では、夫婦でお互いに家事育児分担を納得した形で実施している**と考えられる。

表 1.2.1 本人の家事育児分担納得度(単位：%)

		納得度 (%)	χ^2	df	検定結果	N
父全体		83.0				412
父職位	フルタイム管理職以上	90.0	3.990	1	*	90
	フルタイム一般職	81.1				322
母全体		64.9				824
母職位	フルタイム管理職以上	70.6	0.255	2	n. s.	17
	フルタイム一般職	65.0				468
	パートタイム・アルバイト	64.6				339
父生活満足度	高	90.1	35.418	1	***	292
	低	65.8				120
母生活満足度	高	75.2	112.263	1	***	616
	低	34.6				208
父夫婦関係満足度	高	90.0	43.383	1	***	310
	低	61.8				102
母夫婦関係満足度	高	80.9	190.495	1	***	555
	低	32.0				269

※職位別および満足度別[納得している/どちらかといえば納得している]合計回答率クロス集計の χ^2 検定結果。*** $p < .001$, * $p < .05$, n. s. 有意差なし。

生活満足度別、夫婦関係満足度別では父親および母親回答ともに全て高群、低群の納得度に χ^2 検定により0.1%水準で有意な差がみられ、父親回答の生活満足度別において高群が90.1%で有意に高く、低群が65.8%で有意に低く、母親回答では高群が75.2%で有意に高く、低群が34.6%で有意に低かった。夫婦関係満足度別の父親回答では高群が90.0%で有意に高く、低群が61.8%で有意に低く、母親回答で高群は80.9%で有意に高く、低群が32.0%で有意に低い結果となった。生活満足度別では、高群および低群間で父親回答は24.3ポイント、母親回答は40.6ポイントの差があり、同様に夫婦満足度別では、高群および低群間で父親回答に28.2ポイント、母親回答に48.9ポイントの差があり、**家事育児分担納得度は、父親母親ともかなりの程度、生活満足度および夫婦関係満足度に影響を及ぼすと考えられ、とりわけ母親にとってはその影響が甚大であるといえよう。**

同様に配偶者の家事育児分担の納得度の結果を表1.2.2に示す。父親全体の配偶者の育児分担納得度は73.3%、母親全体は92.8%となり、19.5ポイントの差があった。総じて母親側の配偶者納得度が高い。母親においては、相当程度、本人が家事育児分担をしていると想定され、配偶者に対しても自身が分担している分、相手は納得しているだろうと考えているのではないだろうか。

表 1.2.2 配偶者の家事育児分担納得度(単位：%)

		納得度 (%)	χ^2	df	検定結果	N
父全体		73.3				412
父職位	フルタイム管理職以上	77.8	1.179	1	n. s.	90
	フルタイム一般職	72.0				322
母全体		92.8				824
母職位	フルタイム管理職以上	100.0	1.386	2	n. s.	17
	フルタイム一般職	92.5				468
	パートタイム・アルバイト	92.9				339
父生活満足度	高	81.8	37.433	1	***	292
	低	52.5				120
母生活満足度	高	93.7	2.523	1	n. s.	616
	低	90.4				208
父夫婦関係満足度	高	81.3	40.839	1	***	310
	低	49.0				102
母夫婦関係満足度	高	94.8	9.575	1	**	555
	低	88.8				269

※職位別および満足度別[納得している／どちらかといえば納得している]合計回答率クロス集計の χ^2 検定結果。*** $p < .001$, ** $p < .01$, n. s. 有意差なし。

職位別結果では、父親回答がフルタイム管理職以上 77.8%、フルタイム一般職 72.0%と 5.8 ポイントの差があるものの有意差はみられなかったが、本人の家事育児分担納得度と同様に、職位別の父親回答は職位が上がるほど配偶者納得度が高い結果となった。職位が上がるほど、本人の年齢が高いことが考えられ、子どもの年齢も上がるだろう。育児が比較的落ち着き、家事育児の負担も少なくなる結果、配偶者の納得度が高くなることがその要因の一つとして考えられる。母親回答による職位別の配偶者家事育児分担納得度については、総じて 90%以上を超え、職位が上がるほど納得度が高いものの、有意差はみられなかった。

生活満足度別では父親回答において、高群 81.8%、低群 52.5%、29.3 ポイントの差があり、 χ^2 検定により 0.1%水準で有意な差がみられた。夫婦関係満足度も同様に高群 81.3%、低群 49.0%、32.3 ポイントの差があり、 χ^2 検定により 0.1%水準で有意な差がみられた。父親においては、生活満足度および夫婦関係満足度が高いほど、配偶者の家事育児分担納得度も高い結果となった。

母親回答では生活満足度別の配偶者家事育児分担納得度において、高群 93.7%、低群 90.4%で有意な関連はみられなかった。夫婦関係満足度別では、高群 94.8%、低群 88.8%となり、1%水準で有意差がみられた。父親、母親ともに配偶者の家事育児分担の納得度は概

ね納得していると考えているが、生活満足度と夫婦関係満足度が低いほど、配偶者の納得の程度が低いと想定している様子が見える。

1.3 仕事と家庭の両立に関する態度と意識（ワーク・ファミリー・コンフリクト）

1.3.1 ワーク・ファミリー・コンフリクト尺度の定義および質問項目

本節では、Kahnら(1964)により提唱された、就業者個人が仕事役割と家庭役割が対立しあうことにより経験する役割葛藤である「ワーク・ファミリー・コンフリクト(Work-Family Conflict : 以下 WFC)」の概念を援用し、仕事の家庭の両立に対する態度や意識を検討する。

調査に用いた WFC 尺度は、Greenhaus らによる WFC 尺度 (Greenhaus, 1985)、渡井ら (2006) および吉田 (2007) が開発した日本語版の WFC 尺度を参考にし、「家族生活領域から仕事生活領域への葛藤 (以下 FWC)」と、「仕事生活領域から家族生活領域への葛藤 (以下 WFC)」の双方において、時間、ストレス反応、行動的側面の 3 要素を組み合わせた 6 側面 18 項目のうち、10 項目³を調査票に組み (表 1.3.1)、「あてはまる」「あてはまらない」の 2 件法で尋ねた。

表 1.3.1 ワーク・ファミリー・コンフリクト質問項目

	WFC : 仕事から家庭への葛藤	FWC : 家庭から仕事への葛藤
Time-based (時間的側面)	仕事のせいで、思ったように家族と過ごすことができない	家族と時間を過ごすために、自分のキャリアアップに役立つ職場での活動に時間をかけられないことがよくある
	仕事のせいで、家事に関する動めや活動をする時間が十分取れない	家族としての責任を果たすために多くの時間を使うので、仕事の活動が犠牲になっている
Strain-based (ストレス反応面)	仕事から帰った時、くたくたに疲れていて、家族といろいろなことをしたり、家族としての責任が果たせないことがよくある	家庭での責任からくるストレスがよくあるので、仕事に集中するのが難しいことがある
	職場でのストレスのために、家に帰っても自分が好きなことさえ出来ないことがある	家庭生活の緊張と不安のため、往々にして仕事をする能力が低下してしまう
Behavior-based (行動面)	仕事上で利用する問題解決行動は、家庭での問題解決に有効ではない	家庭内をうまくやりくりする行動や態度は、仕事上では有効ではない

1.3.2 ワーク・ファミリー・コンフリクト項目の回答および得点結果

表 1.3.2 にワーク・ファミリー・コンフリクト項目の「あてはまる」と回答した、職位別のクロス集計および χ^2 検定の結果を示す。

父親回答における全体の結果は、仕事から家庭への時間的側面の WFC である「仕事のせいで、思ったように家族と過ごすことができない」が 46.4%、「家族と時間を過ごすために、

³ 全 18 項目から構成される質問のうち、質問の含意が重なると思われるものを省き、また、Greenhaus (1985) らの英文を参考にし、日本語訳を修正した。

自分のキャリアアップに役立つ職場での活動に時間をかけられないことがよくある」49.3%と回答し、約半数の父親が時間的な WFC を感じていた。続いて、行動面の WFC、ストレス反応面での WFC がそれぞれ約 4 割強と続き、家庭から仕事への FWC は行動面、時間的側面、ストレス反応の順に該当者が多い結果となった。**概して父親においては、家庭から仕事よりも、仕事から家庭へのコンフリクトが、そして時間的側面のコンフリクトが感じられている**といえよう。

母親回答における全体の結果で最も多かったのが、家庭から仕事への時間的側面のコンフリクトである「家族と時間を過ごすために、自分のキャリアアップに役立つ職場での活動に時間をかけられないことがよくある」49.0%、つづいて仕事から家庭へのストレス反応面のコンフリクトである「仕事から帰った時、くたくたに疲れていて、家族といろいろなことをしたり、家族としての責任が果たせないことがよくある」43.4%、仕事から家庭への時間的コンフリクトである「仕事のせいで、家事に関する勤めや活動をする時間が十分取れない」41.6%が続いた。家庭から仕事へのストレス反応面の 2 項目はいずれも 2 割弱と少なく、**全体的に父親回答よりも母親回答でコンフリクトがあると回答した割合が低かった。**

職位別の父親回答結果は、概してフルタイム一般職よりもフルタイム管理職以上でコンフリクトを感じる割合が高く、最もポイント差があった項目は仕事から家庭へのストレス反応面のコンフリクトである「仕事から帰った時、くたくたに疲れていて、家族といろいろなことをしたり、家族としての責任が果たせないことがよくある」で、フルタイム管理職以上 50.0%、フルタイム一般職 40.7%であった。しかしながらすべての項目において有意差はみられなかった。

職位別の母親回答結果は、仕事から家庭への時間的側面では職位が上がるほどコンフリクトを感じており、家庭から仕事への時間的側面ではフルタイム一般職で、ストレス反応面は WFC および FWC いずれも一般職が最もコンフリクトを感じていた。残差分析の結果、全ての項目において 5%水準でフルタイム一般職の該当割合が有意に高く、パートタイム・アルバイトの該当割合が有意に低い結果となった。仕事量が他の職位と比較して少ないであろうパートタイム・アルバイトにおいて、すべてのワーク・ファミリー・コンフリクト項目が低く、また、ある程度の裁量度を持ち、自身の仕事の量をセーブしたり、コントロールしやすいフルタイム管理職以上よりも、**仕事の量や時空間に対する裁量度が低いと考えられるフルタイム一般職が葛藤を抱えやすい様子**がうかがえる。

表 1.3.2 ワーク・ファミリー・コンフリクト項目(単位: %)

		Time-based (時間的側面)			
		WFC		FWC	
		仕事のせいで、思ったように家族と過ごすことができない	仕事のせいで、家事に関する勤めや活動をすることが十分取れない	家族と時間を過ごすために、自分のキャリアアップに役立つ職場での活動に時間をかけられないことがよくある	家族としての責任を果たすために多くの時間をを使うので、仕事の活動が犠牲になっている
N					
父全体	412	46.4	49.3	37.6	30.1
父職位					
	フルタイム管理職以上	90	43.3	51.1	44.4
	フルタイム一般職	322	47.2	48.8	35.7
	χ^2 値(df=1)		0.156	2.284	0.247
	検定結果	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.
母全体	824	35.8	41.6	49.0	24.6
母職位					
	フルタイム管理職以上	17	76.5	70.6	58.8
	フルタイム一般職	468	40.8	47.4	68.4
	パートタイム・アルバイト	339	26.8	32.2	21.8
	χ^2 値(df=2)		29.181	24.888	41.292
	検定結果	***	***	***	***
		Strain-based (ストレス反応面)			
		WFC		FWC	
		仕事から帰った時、くたくたに疲れていて、家族といろいろなことをしたり、家族としての責任が果たせないことがよくある	職場でのストレスのために、家に帰っても自分が好きなことさえ出来ないことがある	家庭での責任からくるストレスがよくあるため、仕事に集中するのが難しいことがある	家庭生活の緊張と不安のため、往々にして仕事をする能力が低下してしまう
N					
父全体	412	42.7	41.5	30.6	29.4
父職位					
	フルタイム管理職以上	90	50.0	42.2	28.9
	フルタイム一般職	322	40.7	41.3	31.1
	χ^2 値(df=1)		2.495	0.024	0.452
	検定結果	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.
母全体	824	43.4	29.2	18.0	18.7
母職位					
	フルタイム管理職以上	17	41.2	11.8	17.6
	フルタイム一般職	468	47.9	34.0	21.8
	パートタイム・アルバイト	339	37.5	23.6	14.2
	χ^2 値(df=2)		8.691	12.791	11.075
	検定結果	**	**	**	**
		Behavior-based (行動面)			
		WFC		FWC	
		仕事上で利用する問題解決行動は、家庭での問題解決に有効ではない	家庭内をうまくやりくりする行動や態度は、仕事上では有効ではない		
N					
父全体	412	43.7	38.6		
父職位					
	フルタイム管理職以上	90	47.8	41.1	
	フルタイム一般職	322	42.5	37.9	
	χ^2 値(df=1)		0.782	0.308	
	検定結果	n. s.	n. s.		
母全体	824	30.6	23.2		
母職位					
	フルタイム管理職以上	17	41.2	23.5	
	フルタイム一般職	468	34.8	25.9	
	パートタイム・アルバイト	339	24.2	19.5	
	χ^2 値(df=2)		11.402	4.503	
	検定結果	**	n. s.		

※あてはまると回答した割合のクロス集計の χ^2 検定結果。*** p<.001, ** p<.01, n. s. 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

表 1.3.3 ワーク・ファミリー・コンフリクト得点

WFC得点		平均	SD	検定		N
父全体		3.90	3.05			412
父職位	フルタイム管理職以上	4.13	3.22	t(134.86)=0.80	n. s.	90
	フルタイム一般職	3.83	2.99			322
母全体		2.99	2.81			824
母職位	フルタイム管理職以上	3.59	2.74	F(2, 821)=18.30	a a *** a	17
	フルタイム一般職	3.47	2.99			468
	パートタイム・アルバイト	2.30	2.38			339
父生活満足度	高	3.43	2.96	t(221.96)=-4.96	***	292
	低	5.03	2.95			120
母生活満足度	高	2.80	2.73	t(335.22)=-3.25	**	616
	低	3.56	2.95			208
父夫婦関係満足度	高	3.61	3.05	t(182.39)=-3.47	**	310
	低	4.76	2.86			102
母夫婦関係満足度	高	2.80	2.74	t(503.77)=-2.78	**	555
	低	3.39	2.91			269

※検定について、2群間の判定はt検定、3群間の判定はTukey検定による。*** p<.001, ** p<.01, n. s. 有意差なし。

※検定内のアルファベット符号は、多重比較の結果、異符号間に5%水準の有意差があることを示す。

最後に、全てのワーク・ファミリー・コンフリクト項目を足し、10項目を各1点ずつ、合計10点満点で得点化したWFC得点の平均点を職位別、生活満足度別、夫婦関係満足度別に算出し、検定した結果を表1.3.3に示す。

父親回答全体の得点は3.9点、母親回答全体の得点は2.99点であり、父親のWFC得点が高かった。本調査は家事育児参画度の高い父親を対象に行っているが、母親よりも家事育児をしている父親ほど葛藤を感じている様子がうかがえる。性別役割分業が存在し、家事育児はまだ妻側の役割である日本においては、家事育児に積極的な父親は少なく、職場でも仕事中心の男性が多い中、家事育児に参画している父親ほど葛藤を抱えやすいのではないかと推察される。

職位別の結果は、父親回答および母親回答いずれも職位が上がるほど、WFC得点が高いが、父親回答では有意差なし、母親回答では危険率0.1%水準で職位グループ間に有意な差がみられた。

生活満足度別では、父親回答でWFC得点が高群3.43点、低群5.03点、0.1%水準で有意に低群がコンフリクトを感じている結果となった。母親回答ではWFC得点が高群2.80点、低群3.56点となり、危険率1%水準で有意差がみられた。父親、母親共に生活満足度が低いほど、WFC得点が高い結果となった。

夫婦関係満足度別のWFC得点結果は、父親および母親共に危険率1%水準で有意差がみられ、夫婦関係満足度が低いほど、WFCを感じているという結果となった。仕事と家庭の両立に試行錯誤する共働き夫婦において、役割葛藤は避けられない課題である。しかしなが

ら、生活満足度や夫婦関係満足度に影響を及ぼすことが示唆され、こうした葛藤を低減していくことが求められよう。

2. 家事育児における情報機器およびネット利用実態

2.1 情報機器の利用実態

本章では、仕事以外の情報機器およびネット利用実態を概観する。Q5 では、仕事以外で利用する情報機器利用を尋ねている。情報機器毎の利用率および職位別利用率の χ^2 検定結果を表 2.1.1 に示す。

スマートフォンは父親全体 91.5%、母親全体 93.0%と、全ての機器のうちで最も利用率が高い。続いて利用率が高いのはパソコンであり、父親全体 71.1%、母親全体 48.5%と 20 ポイント以上の差があった。その次がタブレット端末で、父親全体で約 3 割、母親全体で約 2 割の利用率となっている。未就学児を持つ共働き夫婦のメイン端末はスマートフォンであり、サブ端末としてパソコンやタブレット端末が利用されているといえよう。

表 2.1.1 仕事以外の情報機器利用率(単位：%)

	N	父全体	父職位				
			フルタイム 管理職以上	フルタイム 一般職	χ^2 値 (df=1)	検定 結果	
スマートフォン	377	91.5	87.8	92.5	2.058	n. s.	
携帯電話（ガラケー）	40	9.7	15.6	8.1	4.491	*	
タブレット端末（iPadなど）	118	28.6	41.1	25.2	2.284	n. s.	
パソコン	293	71.1	83.3	67.7	8.367	**	
携帯ゲーム機	65	15.8	15.6	15.8	0.004	n. s.	
据置き型ゲーム機	59	14.3	16.7	13.7	0.517	n. s.	
音楽プレイヤー	80	19.4	22.2	18.6	0.579	n. s.	
	N	母全体	母職位				
			フルタイム 管理職以上	フルタイム 一般職	パートタイム ・アルバイト	χ^2 値 (df=2)	検定 結果
スマートフォン	766	93.0	94.1	92.3	93.8	0.709	n. s.
携帯電話（ガラケー）	56	6.8	11.8	7.1	6.2	0.904	n. s.
タブレット端末（iPadなど）	179	21.7	47.1	22.0	20.1	6.992	*
パソコン	397	48.2	47.1	52.6	42.2	8.495	*
携帯ゲーム機	75	9.1	17.6	8.5	9.4	1.721	n. s.
据置き型ゲーム機	74	9.0	5.9	8.5	9.7	0.543	n. s.
音楽プレイヤー	111	13.5	11.8	15.4	10.9	3.414	n. s.

※利用率クロス集計の χ^2 検定結果。** $p < .01$, * $p < .05$, n. s. 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

職位別では、父親回答において、携帯電話（ガラケー）の利用率がフルタイム管理職以上 15.6%、フルタイム一般職 8.1%となっており、危険率 5%水準で有意差がみられ、また、パソコンにおいてもフルタイム管理職以上で 83.3%、フルタイム一般職で 67.7%と 1%水準で有意差があり、いずれも職位が高いほど利用率が高い結果となった。母親回答職位別で

はタブレット端末およびパソコン利用率において、フルタイム一般職の利用率が最も高く、次いでフルタイム管理職、パートタイム・アルバイトとなり、危険率 5%水準で有意差がみられた。特にパソコン利用においては、残差分析の結果、5%水準で有意にフルタイム一般職の利用率が高く、パートタイム・アルバイトの利用率が低い結果となった。

2.2 仕事以外のインターネット利用時間

Q7 では仕事以外の機器別インターネット利用時間について尋ねている。父親回答および母親回答全体と職位別の平均利用時間を表 2.2.1 に示す。なお、回答母数は各機器利用者である。機器別のインターネット利用時間は、全ての層でスマートフォン、パソコン、タブレット、ガラケー（携帯電話）の順に多かった。父親回答全体では、スマートフォンネット平均利用時間 118.9 分、パソコンネット 64.2 分、タブレットネット 38.6 分、ガラケーネット 25.7 分、母親回答全体ではスマートフォンネット平均利用時間 141.7 分、パソコンネット 50.0 分、タブレットネット 39.3 分、ガラケーネット 11.7 分となり、スマートフォンネット時間は父親より母親の方が長く、パソコンネット時間は母親よりも父親で長く、タブレットネット時間は同程度、ガラケーネット時間は母親の平均利用時間より父親が倍以上長かった。母親は家事や育児に仕事など、様々なことをこなす隙間時間でスマートフォンネットを中心にネットをしており、父親はどちらかといえば仕事で使い慣れているパソコンで、まとまった時間でネットをしていることが考えられる。

職位別にみると、父親回答ではパソコンネット時間のみ、フルタイム管理職以上で 80.4 分、フルタイム一般職で 58.6 分と 20 分以上管理職が長く、5%水準で有意差がみられた。それ以外の機器でのネット利用時間はほぼ同程度であり、有意差はなかった。母親回答では、スマートフォンネット時間およびガラケーネット時間で職位が低いほど利用時間が長く、パソコンネット時間ではフルタイム管理職以上が 90.0 分、それ以外の 2 グループがいずれも 50 分程度と約 40 分フルタイム管理職の利用時間が長かったが、全ての機器でのネット利用時間において有意差はなかった。タブレットネット時間はフルタイム一般職以上で最も長く 41.2 分、次いでパートタイム・アルバイト 37.2 分、フルタイム管理職 33.1 分の順となった。

総じて、父親、母親ともに仕事以外のネット利用では、スマートフォンが主要機器として利用され、パソコンおよびタブレットが補助的に利用されている様子がうかがえる。本質問紙調査と合わせて、未就学児を持つ共働き夫婦への家庭訪問による聞き取り調査を実施したが、在宅時に家事などの用事を済ますために、子どもにスマートフォンで YouTube の音楽や映像を見せたり、教育目的で英語の歌を聞かせたりするという声が聞かれた。こうした子守りや子どもの教育利用にも情報機器は利用されており、今後も増える可能性があるだろう。

表 2.2.1 仕事以外の機器別インターネット利用時間(単位：分)

		趣味ネット_スマートフォン(分)					
		平均	SD	検定	N		
父	全体	118.9	86.63	t(118.00)=-0.43	n. s.	376	
	職位	フルタイム管理職以上	115.1			90.41	79
		フルタイム一般職	119.9			85.73	297
母	全体	141.7	106.27	F(2, 761)=0.14	n. s.	764	
	職位	フルタイム管理職以上	106.3			66.29	16
		フルタイム一般職	139.0			102.05	432
		パートタイム・アルバイト	147.2			113.10	316
		趣味ネット_ガラケー(分)					
		平均	SD	検定	N		
父	全体	25.7	44.33	t(32.86)=-0.001	n. s.	40	
	職位	フルタイム管理職以上	25.7			37.60	14
		フルタイム一般職	25.7			48.28	26
母	全体	11.7	20.79	F(2, 53)=0.94	n. s.	56	
	職位	フルタイム管理職以上	5.0			7.07	2
		フルタイム一般職	10.1			13.23	33
		パートタイム・アルバイト	14.8			29.79	21
		趣味ネット_タブレット(分)					
		平均	SD	検定	N		
父	全体	38.6	39.32	t(75.90)=0.20	n. s.	118	
	職位	フルタイム管理職以上	39.6			37.05	37
		フルタイム一般職	38.1			40.52	81
母	全体	39.3	36.12	F(2, 176)=0.09	n. s.	179	
	職位	フルタイム管理職以上	33.1			36.15	8
		フルタイム一般職	41.2			39.56	103
		パートタイム・アルバイト	37.2			30.53	68
		趣味ネット_パソコン(分)					
		平均	SD	検定	N		
父	全体	64.2	69.98	t(291.00)=2.35	n. s.	293	
	職位	フルタイム管理職以上	80.4			94.43	75
		フルタイム一般職	58.6			58.54	218
母	全体	50.0	61.33	F(2, 394)=1.26	n. s.	397	
	職位	フルタイム管理職以上	90.0			53.18	8
		フルタイム一般職	48.8			66.56	246
		パートタイム・アルバイト	50.0			51.11	143

※分析母数は各情報機器利用者のうち、0分の回答を含む回答数。

※検定について、2群間の判定はt検定、3群間の判定はTukey検定による。n. s. 有意差なし。

2.3 家事育児に関するネット利用

昨今では、様々なアプリやウェブサイトが家事育児に関する行動やタスク実行を支援してくれている。また、SNSを通じて、自身や家族の様子やイベントを発信して友人や知人などに伝えることも可能だ。ここでは家事育児に関連したネット利用行動を取り上げ、家族間でのスケジュールや写真の共有、家族や家事育児に関するSNSへの投稿や閲覧について、職位別、家事育児に関するサポートの有無別にクロス集計および χ^2 検定を行った結果を示す(表2.3.1)。

父親回答において、全体で多かった行動は、「インターネットで、家事育児の情報収集をする」62.4%、「インターネットの写真共有サイトやアプリで、子供や家族の写真を家族間で共有する」38.8%、「友人や知人などが Facebook や Instagram などの SNS に投稿した子供や家族の写真やイベントを閲覧する」32.0%の順となった。母親回答では、「インターネットで、家事育児の情報収集をする」81.7%、「友人や知人などが Facebook や Instagram などの SNS に投稿した子供や家族の写真やイベントを閲覧する」56.4%、「友人や知人の家事や子育てに関わる Facebook や Instagram などの SNS への投稿をみて、自分の家事育児の参考にする」43.4%、が続いた。ネットによる家事育児情報の収集は、父親と母親両方において6割以上となり、ネットが家事育児の情報源の一つとなっている様子が伺える。また、SNS での友人らによる家族関連の投稿閲覧も、父親で4割、母親回答で5割と半数近くでなされていた。母親回答においては、SNS での友人知人の家事育児関連の投稿を自身の家事育児の参考にしており、SNS は家事育児においても重要な情報源になっているといえよう。父親、母親自身による SNS への子供や家族、家事育児に関する投稿については3割弱以下にとどまっており、閲覧と比較して投稿には非積極的な様子がうかがえ、子供や家族の個人情報の開示を懸念していることが考えられる。全体的に、父親より、母親で各利用行動率が高い結果となった。

父親回答による職位別の結果では、全ての項目でフルタイム管理職以上がフルタイム一般職より利用行動率が高く、「友人や知人の家事や子育てに関わる Facebook や Instagram などの SNS への投稿をみて、自分の家事育児の参考にする」、「インターネットで、家事育児の情報収集をする」、「インターネットの写真共有サイトやアプリで、子供や家族の写真を家族間で共有する」以外すべての項目において有意差がみられ、フルタイム管理職以上の利用行動率が高かった。

母親回答による職位別の結果では、「仕事や家族のスケジュールを、オンラインのスケジューラーやアプリで (Google カレンダーなど) 家族で共有する」において危険率 1%水準で有意な差が、そして「インターネットで、家事育児の情報収集をする」、「SNS や Yahoo!知恵袋などのインターネットの掲示板に、家事育児の悩みを相談する」、「インターネットの写真共有サイトやアプリで、子供や家族の写真を家族間で共有する」の3項目において5%水準で有意差が示された。残差分析の結果では、「仕事や家族のスケジュールを、オンラインのスケジューラーやアプリで (Google カレンダーなど) 家族で共有する」に先の3項目を加えた4項目において、フルタイム一般職が有意に高く、パートタイム・アルバイトが有意に低い結果となった。情報源や家事育児のタスク遂行支援としてのネット利用行動は、仕事の裁量度が低いと思われるフルタイム一般職が積極的に活用しているといえよう。

表 2.3.1 家事育児に関するネット利用行動率(単位：%)

		仕事や家族のスケジュールをオンラインのスケジューラーやアプリで (Google カレンダーなど) 家族で共有する	子供の写真や動画を、FacebookやInstagramなどのSNSに投稿する	誕生日や運動会など、子供に関連したイベントをFacebookやInstagramなどのSNSに投稿する	子供の成長の様子をFacebookやInstagramなどのSNSに投稿する	友人や知人などがFacebookやInstagramなどのSNSに投稿した子供や家族の写真やイベントを閲覧する
	N					
父全体	412	23.8	23.3	20.9	21.4	32.0
父職位	フルタイム管理職以上	90	32.2	23.3	28.9	42.2
	フルタイム一般職	322	21.4	21.1	18.6	29.2
	χ^2 値 (df=1)		4.520	3.930	4.479	5.119
	検定結果	*	*	*	*	*
母全体	824	20.5	33.3	32.3	33.9	56.4
母職位	フルタイム管理職以上	17	23.5	41.2	41.2	52.9
	フルタイム一般職	468	24.6	32.1	31.2	57.9
	パートタイム・アルバイト	339	14.7	34.5	33.3	54.6
χ^2 値 (df=2)		11.734	1.028	1.039	0.451	0.975
	検定結果	**	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.
父サポート有無	サポートあり	306	24.2	24.2	21.9	37.9
	サポートなし	106	22.6	20.8	17.9	15.1
	χ^2 値 (df=1)		0.103	0.518	0.752	4.415
	検定結果	n. s.	n. s.	n. s.	*	***
母サポート有無	サポートあり	661	21.8	35.6	33.9	60.8
	サポートなし	163	15.3	23.9	25.8	38.7
	χ^2 値 (df=1)		3.334	7.963	0.039	2.291
	検定結果	†	**	*	n. s.	***
		友人や知人の家事や子育てに関わるFacebookやInstagramなどのSNSへの投稿をみて、自分の家事育児の参考にしている	インターネットで、家事育児の情報収集をする	SNSやYahoo!知恵袋などのインターネットの掲示板に、家事育児の悩みを相談する	インターネットの写真共有サイトやアプリで、子供や家族の写真を家族間で共有する	
	N					
父全体	412	22.8	62.4	12.4	38.8	
父職位	フルタイム管理職以上	90	30.0	63.3	21.1	45.6
	フルタイム一般職	322	20.8	62.1	9.9	37.0
	χ^2 値 (df=1)		3.375	0.045	8.096	2.190
	検定結果	†	n. s.	**	n. s.	
母全体	824	43.4	81.7	13.0	40.7	
母職位	フルタイム管理職以上	17	47.1	82.4	17.6	35.3
	フルタイム一般職	468	44.9	84.6	15.4	45.1
	パートタイム・アルバイト	339	41.3	77.6	9.4	34.8
χ^2 値 (df=2)		1.114	6.505	6.483	8.813	
	検定結果	n. s.	*	*	*	
父サポート有無	サポートあり	306	26.1	66.0	14.4	43.1
	サポートなし	106	13.2	51.9	6.6	26.4
	χ^2 値 (df=1)		0.075	6.694	0.044	9.268
	検定結果	**	*	*	**	
母サポート有無	サポートあり	661	45.8	83.8	14.4	41.5
	サポートなし	163	33.7	73.0	7.4	37.4
	χ^2 値 (df=1)		0.078	0.102	0.057	0.880
	検定結果	**	**	*	n. s.	

※利用率クロス集計の χ^2 検定結果。*** p<.001, ** p<.01, * p<.05, †<.10, n. s. 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

※サポート有無はQ15の家事育児に関するサポートについて、いずれのサポートもないと回答した人をサポートなし群、それ以外をサポートあり群の2群に分けクロス集計した結果。

最後に、家事育児のサポート有無別についてみてみよう。父親と母親回答の9項目全てにおいて、サポートあり群がサポートなし群より利用行動率が高い。父親回答では「友人や知人などが Facebook や Instagram などの SNS に投稿した子供や家族の写真やイベントを閲覧する」が 0.1%水準で、「友人や知人の家事や子育てに関わる Facebook や Instagram などの SNS への投稿をみて、自分の家事育児の参考にする」と「インターネットの写真共有サイトやアプリで、子供や家族の写真を家族間で共有する」が 1%水準で、「誕生日や運動会など、子供に関連したイベントを Facebook や Instagram などの SNS に投稿する」、「インターネットで、家事育児の情報収集をする」および「SNS や Yahoo!知恵袋などのインターネットの掲示板に、家事育児の悩みを相談する」が 5%水準で、両群間に有意な差がみられた。有意差がみとめられた 6 項目のうち、「インターネットで、家事育児の情報収集をする」以外の全ての項目で、サポートあり群の利用行動率がサポートなし群のそれらと比較して 2 倍前後となっており、サポートあり群のネットを利用した家庭参加の高さがうかがえる。サポートなし群は、家事育児に関する SNS 活用にも非積極的であるといえよう。

母親回答結果でも同様に、9 項目すべてにおいてサポートあり群がサポートなし群の利用行動率を上回り、「友人や知人などが Facebook や Instagram などの SNS に投稿した子供や家族の写真やイベントを閲覧する」が 0.1%水準で、「子供の写真や動画を、Facebook や Instagram などの SNS に投稿する」、「友人や知人の家事や子育てに関わる Facebook や Instagram などの SNS への投稿をみて、自分の家事育児の参考にする」および「インターネットで、家事育児の情報収集をする」が 1%水準で、「誕生日や運動会など、子供に関連したイベントを Facebook や Instagram などの SNS に投稿する」と「SNS や Yahoo!知恵袋などのインターネットの掲示板に、家事育児の悩みを相談する」が 5%水準で有意差がみとめられ、サポートあり群がサポートなし群と比較して有意に家事育児に関するネット利用行動率が高かった。父親回答の傾向と同様に、家事育児サポートがない人ほど、家庭や家事育児におけるネットや SNS の活用にも非積極的であり、オンライン上で閉鎖的なネットワークを形成している可能性が示唆される。

2.4 育児に関する情報入手および相談先

日々の育児では、子どもの体調や発達、躰や教育面など、親が様々なイベントに対応するための情報や支援が必要となる。育児に関する情報入手先および相談先について、Q16で「あなたはお子さんの育児についての情報をどのように得ていますか。次の中からあてはまるものをいくつでもお選びください。(いくつでも)」と、12 項目の情報源・相談先について尋ねている。「あてはまる」と回答した割合を、父親回答、母親回答の全体、職位別、家事育児サポート有無別にクロス集計し、 χ^2 検定を行った結果を示す(表 2.4.1)。

父親回答全体および母親回答全体の結果、育児の情報入手先および相談先で最も回答が多かったのが「配偶者に相談する」であり、父親 76.5%、母親 76.6%であった。つづいて「ネット上の記事を見る」が父親 46.8%、母親 58.7%となり、**両親や友人知人関連を抑え、主要な育児情報源および相談先になっていた**。日頃、仕事と家庭の両立で時間に制約のある共働き夫婦にとっては、一緒に暮らす配偶者に次いで、ネットが主要な家事育児情報源となっており、思い立った時にすぐに検索し、手軽に情報入手ができるメリットを享受しているのであろう。育児情報源としてのネットの存在感を示す結果となった。他に母親回答では「両親や親戚などの近親者に尋ねる」、「ママ友・パパ友に尋ねる」、「保育園/幼稚園で相談する」がおよそ5割前後となり、日常生活動線の中で接点のある近親者や友人、子どもの預け先施設が相談先としてあがっている。「行政や自治体の相談窓口で相談する」は父親で7.0%、母親で9.3%にとどまっており、わざわざ相談のために出向かなければならないことや相談先としての認知不足が原因として考えられるだろう。育児という社会全体で支援が必要な営みに対し、行政側の積極的な働きかけが必要となろう。

職位別の父親回答結果では、「ネット掲示板やQ&Aサイトで尋ねる」が10%水準でやや関連がみられたものの、それ以外は全ての項目で有意差はみとめられなかった。職位別母親回答では「保育園/幼稚園で相談する」が1%水準で有意差がみられ、残差分析の結果1%水準で有意にフルタイム管理職以上の回答率が高く、パートタイム・アルバイトの回答率が低かった。「配偶者に相談する」、「ママ友・パパ友以外の友人・知人に尋ねる」、「ネット上の記事を見る」、「行政や自治体の相談窓口で相談する」、「医者に相談する」の5項目はいずれも5%水準で有意差がみられ、特にフルタイム一般職で回答率が高い傾向にあった。パートタイム・アルバイトは全体的に他の職位と比較してほとんどの項目で回答率が低い傾向があり、相談や情報収集に非積極的な様子うかがえる。「ネット掲示板やQ&Aサイトで尋ねる」は10%水準で有意な関連があり、残差分析ではフルタイム一般職が5%水準で有意に高く、パートタイム・アルバイトが有意に低い結果となった。全体的に、フルタイム一般職は様々な相談先や情報源を積極的に活用している様子うかがえた。

表 2.4.1 育児に関する情報入手先および相談先回答率(単位：%)

	配偶者に 相談する	両親や親 戚などの 近親者に 尋ねる	ママ友・ パパ友に 尋ねる	ママ友・ パパ友以 外の友 人・知人 に尋ねる	仕事関連 の友人・ 知人に尋 ねる	ネット上 の記事を 見る	N
父全体	76.5	39.8	23.5	10.0	10.0	46.8	412
父職位							
フルタイム管理職以上	70.0	36.7	26.7	10.0	21.1	48.9	90
フルタイム一般職	78.3	40.7	22.7	9.9	22.4	46.3	322
χ^2 値(df=1)	2.667	0.474	0.624	0.000	0.064	0.193	
検定結果	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	
母全体	76.6	58.0	58.6	17.0	23.2	58.7	824
母職位							
フルタイム管理職以上	76.5	64.7	58.8	5.9	17.6	35.3	17
フルタイム一般職	80.3	61.1	57.9	19.9	24.8	62.4	468
パートタイム・アルバイト	71.4	53.4	59.6	13.6	21.2	54.9	339
χ^2 値(df=2)	8.791	5.128	0.229	7.055	1.688	8.531	
検定結果	*	†	n. s.	*	n. s.	*	
父サポート有無							
サポートあり	82.7	47.1	25.2	11.1	25.5	50.3	306
サポートなし	58.5	18.9	18.9	6.6	12.3	36.8	106
χ^2 値(df=1)	25.591	26.112	1.733	1.785	8.003	0.058	
検定結果	***	***	n. s.	n. s.	**	**	
母サポート有無							
サポートあり	78.8	65.2	62.8	19.5	26.2	59.2	661
サポートなし	67.5	28.8	41.7	6.7	11.0	57.1	163
χ^2 値(df=1)	9.367	71.006	0.239	15.113	0.168	0.002	
検定結果	**	***	n. s.	***	n. s.	n. s.	
	ネット掲 示板やQ&A サイトで 尋ねる	行政や自 治体の相 談窓口で 相談する	保育園/幼 稚園で相 談する	医者に相 談する	その他	分からな くても情 報を得よ うとはし ない	N
父全体	11.9	7.0	26.0	16.7	0.7	6.8	412
父職位							
フルタイム管理職以上	17.8	10.0	23.3	18.9	0.0	7.8	90
フルタイム一般職	10.2	6.2	26.7	16.1	0.9	6.5	322
χ^2 値(df=1)	3.805	1.543	0.417	0.379	0.845	0.175	
検定結果	†	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	
母全体	11.5	9.3	41.3	21.5	0.6	2.7	824
母職位							
フルタイム管理職以上	5.9	5.9	76.5	23.5	0.0	0.0	17
フルタイム一般職	13.7	9.8	43.2	25.0	0.4	2.8	468
パートタイム・アルバイト	8.8	8.8	36.9	16.5	0.9	2.7	339
χ^2 値(df=2)	5.031	6.483	12.087	8.427	0.789	0.488	
検定結果	†	*	**	*	n. s.	n. s.	
父サポート有無							
サポートあり	12.4	7.5	28.4	17.6	0.7	2.9	306
サポートなし	10.4	5.7	18.9	14.2	0.9	17.9	106
χ^2 値(df=1)	0.313	0.004	3.745	0.690	0.091	27.903	
検定結果	n. s.	n. s.	†	n. s.	n. s.	***	
母サポート有無							
サポートあり	12.7	10.0	41.5	43.3	22.7	0.3	661
サポートなし	6.7	6.7	37.4	33.1	16.6	1.8	163
χ^2 値(df=1)	0.046	0.016	0.880	0.055	2.912	5.128	
検定結果	*	n. s.	n. s.	*	†	*	

※「あてはまる」回答割合のクロス集計および χ^2 検定結果。*** p<.001, ** p<.01, * p<.05, †<.10, n. s. 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

※サポート有無はQ15の家事育児に関するサポートについて、いずれのサポートもないと回答した人をサポートなし群、それ以外をサポートあり群の2群に分けクロス集計した結果。

家事育児サポートの有無別では、父親回答、母親回答ともに、「その他」、「分からなくても情報を得ようとはしない」以外の10項目全てにおいて、サポートなし群と比較してサポートあり群の相談比率が高い。父親回答では「配偶者に相談する」、「両親や親戚などの近親者に尋ねる」、「仕事関連の友人・知人に尋ねる」、「ネット上の記事を見る」の4項目で、母親回答では「配偶者に相談する」、「両親や親戚などの近親者に尋ねる」、「ママ友・パパ友に尋ねる」、「ママ友・パパ友以外の友人・知人に尋ねる」、「仕事関連の友人・知人に尋ねる」、「ネット掲示板やQ&Aサイトで尋ねる」、「医者に相談する」の7項目で、有意にサポートあり群がサポートなし群と比較して回答率が高い結果となった。実際に家事育児について相談したり、情報入手を積極的にしたりしているからこそサポートを得られるのは当然であるが、では、サポートなし群はどのような相談先を活用しているのだろうか。父親および母親のサポートなし群では、配偶者に次いで「ネット上の記事を見る」が父親36.8%、母親57.1%と相談先情報収集先としてあげられており、家族や近親者以外ではネットが主たる情報源となっている様子がうかがえた。母親回答では「ネット上の記事を見る」の回答比率はサポートあり群59.2%、サポートなし群57.1%となっており、サポート有無では有意差はみられなかった。このことから、サポートが得られづらい父親、母親にとって、ネットが育児情報源として存在し機能していることが示唆され、気軽かついつでもどこでも参照できるネットを介した育児情報や支援の提供機会の重要性は再認識に値するだろう。

3. 仕事と情報機器およびネット利用

3.1 仕事における情報機器利用

情報機器やネットは仕事においても必要不可欠な存在となっている。しかしながらそれゆえ、携帯電話や電子メールといった ICT の利用が、所定外労働を増やすなどの延長労働をもたらし、家庭や個人の時空間へと侵入するといった悪影響も懸念されている。そこで本章では、仕事の情報機器およびネット利用を概観し、仕事の持ち帰りなどの ICT を介した仕事や延長労働、そして職場での私的な情報機器やネット利用の実態を把握する。

表 3.1.1 に、仕事で利用する情報機器の利用率および職位別利用率の χ^2 検定結果を示す。なお、本節の分析で利用するデータは、現在仕事をしている人を対象とし、育児休業制度利用者（育休中）を除く回答数となっている。

仕事で最も利用されている情報機器は、父親回答、母親回答ともにパソコンであり、その利用率は父親で 78.4%、母親で 41.5%であった。次いでスマートフォンが父親回答 47.0%、母親回答 14.1%となっており、母親よりも父親で仕事における情報機器利用率が高い。タブレット端末や携帯電話（ガラケー）の利用率は父親全体でおよそ 1 割強、母親で 3%強程度であり、仕事における主要情報機器は業務上の資料作成やメールなどのやり取りなどを行うパソコンと、コミュニケーションやネット利用を行うスマートフォンであるといえよう。

職位別では、父親回答、母親回答ともに職位が上がるほど、全ての機器の利用率が高い。父親回答では、携帯電話（ガラケー）を除く全ての機器において、有意にフルタイム管理職以上の利用率が高かった。スマートフォンではフルタイム管理職以上で 69.8%、フルタイム一般職で 40.7%と 30 ポイント程度の差があり、0.1%水準で有意にフルタイム管理職以上の利用率が高い。また、パソコンでもフルタイム管理職以上 84.9%、フルタイム一般職 76.6%と 8.3 ポイントの差があり、職位が上がるほど情報機器が組織から提供され、それらの情報機器を活用して仕事を遂行している様子がうかがえる。タブレット端末もフルタイム管理職以上で 20.9%、フルタイム一般職と比較して 1%水準で有意に利用率が高く、今後さらに利用率が高まることが予想される。

母親回答職位別ではスマートフォンがフルタイム管理職以上 53.8%とそれ以外の層に対し約 2 倍の利用率の高さとなっており、5%水準で有意差がみられ、残差分析の結果でも 5%水準で有意にフルタイム管理職以上のスマートフォン利用率が高かった。パソコンは、フルタイム管理職以上およびフルタイム一般職の利用率が 8 割前後あり、パートタイム・アルバイトの 32.6%との間に 0.1%水準で有意差がみとめられ、残差分析の結果、5%水準で有意にフルタイム管理職以上およびフルタイム一般職の利用率が高く、パートタイム・アルバイトの利用率が低い結果となった。母親職位別では、フルタイム管理職以上が、父親のフルタイム層と同様の利用率傾向があり、それ以外は職位による利用のばらつきがみられ

た。情報機器は主にホワイトカラー職やマネジメント業務において積極的に活用されていると考えられる。

表 3.1.1 仕事での情報機器利用率(単位：%)

	父全体	父職位			母全体	母職位			
		フルタイム 管理職以上	フルタイム 一般職	検定		フルタイム 管理職以上	フルタイム 一般職	パートタイ ム・アルバ イト	検定
N	398	86	312	χ^2 値 (df=1)	639	13	319	307	χ^2 値 (df=2)
スマートフォン	47.0	69.8	40.7	22.86 ***	14.1	53.8	26.0	23.1	6.47 *
携帯電話（ガラケー）	13.3	15.1	12.8	0.31 n. s.	3.6	7.7	6.9	2.3	7.72 *
タブレット端末（iPadなど）	12.1	20.9	9.6	8.14 **	3.4	7.7	6.6	4.2	1.79 n. s.
パソコン	78.4	84.9	76.6	2.73 †	41.5	84.6	79.6	32.6	145.49 ***
利用しているものはない	0.0	0.0	8.3	3.72 †	5.0	0.0	10.0	47.6	114.74 ***

※分析母数は育休中を除く回答数、利用率クロス集計の χ^2 検定結果。*** p<.001, ** p<.01, * p<.05, †<.10, n. s. 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

3.2 仕事におけるインターネット利用時間

仕事における機器別インターネット利用時間（Q7）の父親回答および母親回答全体と職位別の平均利用時間を示す（表 3.2.1）。機器別の利用時間では、パソコンが最も多く、父親全体で 326.0 分、母親全体で 263.8 分となっており、父親は一日 5 時間以上、母親では 4 時間以上パソコンによるネットを仕事で利用しており、業務ではパソコンネットが必要不可欠なインフラとなっている様子がうかがえる。スマートフォンでのネット利用時間は父親全体で 63.0 分、母親全体で 50.6 分、パソコンに次いでネット利用時間が長かった。プライベートでは主たるネット端末となっているスマートフォンは、仕事ではネット利用においてサブ端末として利用されているが、業務上のコミュニケーションやスケジューリング、出先での利用で活用されているのではないかと推察される。携帯電話（ガラケー）とタブレット端末は、全体的に利用者が少なく、勤め先の情報環境や業務および職種での利用用途に左右されると考えられる。

職位別にみると、父親回答ではスマートフォンを除く全ての機器で、フルタイム管理職以上の利用時間が長い有意差はみられなかった。父親の場合、業務上での情報機器によるネット利用時間は職位に関係ないことが示された。母親回答では、スマートフォンによるネット利用時間に 5%水準で有意差がみられ、またパソコンによるネット利用時間において 0.1%水準で有意差があり、いずれもフルタイム管理職以上の層が他の層と比較してネット利用時間が長かった。母親では職位による業務内容に差異があり、管理業務やホワイトカラー職の仕事の主にしてしている人でネット利用時間が長いことが考えられる。

表 3.2.1 仕事における機器別ネット利用時間（単位：分）

		仕事ネット スマートフォン(分)				
		平均	SD	検定	N	
父	全体	63.0	83.02		187	
	職位	フルタイム管理職以上	57.4	57.68	t(170.83)=-0.59	n. s.
		フルタイム一般職	64.0	92.19		
母	全体	50.6	71.56		161	
母	職位	フルタイム管理職以上	104.3	82.64	F(2, 158)=3.25	a ab * b
		フルタイム一般職	56.1	74.97		
		パートタイム・アルバイト	38.9	63.83		
		仕事ネット ガラケー(分)				
		平均	SD	検定	N	
父	全体	31.9	42.23		53	
	職位	フルタイム管理職以上	22.0	26.19	t(36.95)=-1.35	n. s.
		フルタイム一般職	35.9	46.23		
母	全体	30.5	39.20		30	
母	職位	フルタイム管理職以上	10.0	-	F(2, 27)=0.50	n. s.
		フルタイム一般職	34.8	43.63		
		パートタイム・アルバイト	20.0	22.36		
		仕事ネット タブレット(分)				
		平均	SD	検定	N	
父	全体	48.1	34.39		48	
	職位	フルタイム管理職以上	50.0	36.62	t(34.66)=0.40	n. s.
		フルタイム一般職	45.7	35.03		
母	全体	62.8	59.79		35	
母	職位	フルタイム管理職以上	120.0	-	F(2, 32)=1.67	n. s.
		フルタイム一般職	49.0	28.65		
		パートタイム・アルバイト	80.7	88.35		
		仕事ネット パソコン(分)				
		平均	SD	検定	N	
父	全体	326.0	186.80		312	
	職位	フルタイム管理職以上	348.5	184.26	t(122.34)=1.16	n. s.
		フルタイム一般職	319.6	189.80		
母	全体	263.8	169.79		365	
母	職位	フルタイム管理職以上	337.3	134.10	F(2, 362)=16.11	a b *** b
		フルタイム一般職	291.3	168.54		
		パートタイム・アルバイト	186.0	151.40		

※分析母数は育休中を除き、仕事上での各情報機器利用者のうち、0分の回答を含む回答数。

※検定について、2群間の判定はt検定、3群間の判定はTukey検定による。*** p<.001, * p<.05, n. s. 有意差なし。

※検定内のアルファベット符号は、多重比較の結果、異符号間に5%水準の有意差があることを示す。

3.3 所定外労働とICT利用

本節では、仕事の持ち帰りや時間外労働などの所定外労働とICT利用の実態を把握する。Q32では、所定外労働と情報機器の利用行為に関する9項目について、その頻度を尋ねている。これらの質問項目について、現在していない（「以前はしていたが今はしていない」、「したことがない/できない」）人を除く、現在各項目の行為をしている人を、週に数回以上と週に数回未満の行為頻度に分けて集計した結果を示す（図3.3.1）。

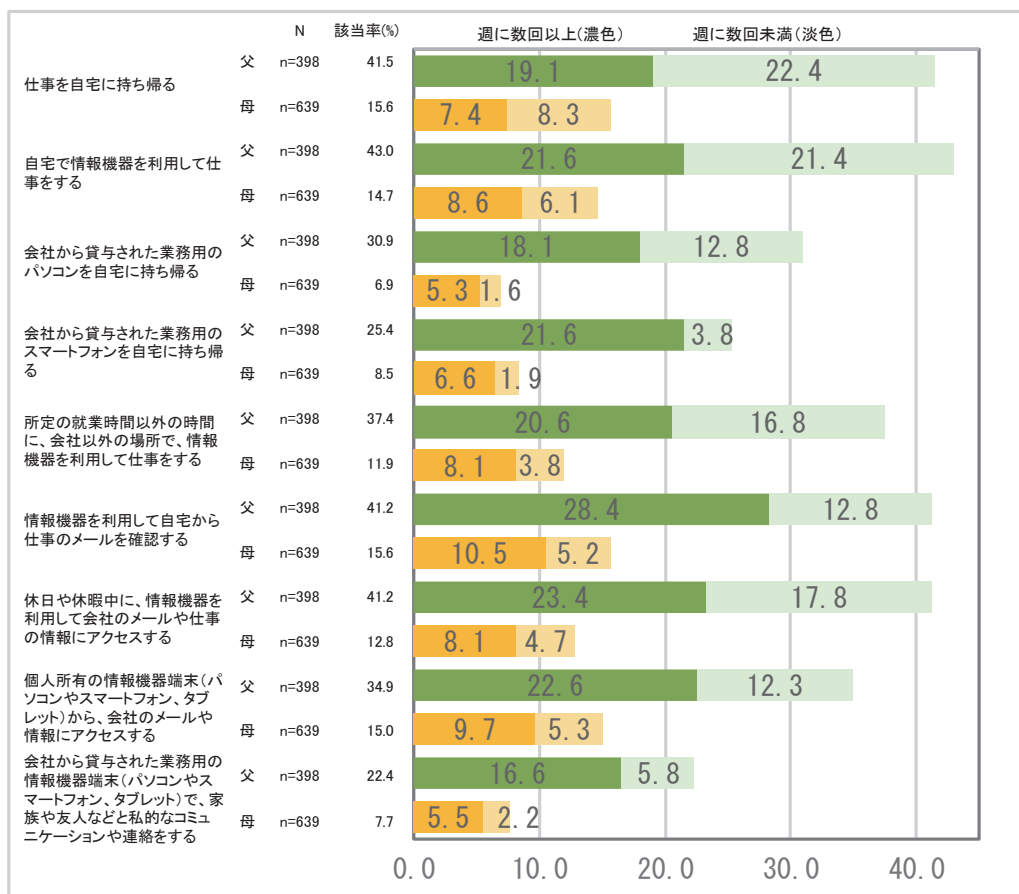


図 3.3.1 所定外労働と ICT 行動(単位: %)

※分析母数は育休中および仕事で情報機器を利用していない人を除く回答数。

全ての項目において、父親回答が母親回答を上回り、自宅への仕事の持ち帰り、自宅での情報機器を用いた所定外労働、自宅からの情報機器を利用した仕事のメールや情報アクセス、休日における情報機器を利用した仕事のメールや情報アクセスをしている父親はいずれも4割前後おり、週に数回以上の仕事の持ち帰りは2割弱、情報機器を用いた自宅での所定外労働は2割を超えていた。特に、父親側で週数回以上の頻度で「情報機器を利用して自宅から仕事のメールを確認する」は28.4%、「休日や休暇中に、情報機器を利用して会社のメールや仕事の情報にアクセスする」は23.4%、「個人所有の情報機器端末(パソコンやスマートフォン、タブレット)から、会社のメールや情報にアクセスする」も22.6%おり、メールの確認は手軽にいつでもどこでも利用できる情報機器があるからこそ、ついやってしまう所定外労働の日常的な行為の一つになっている可能性がある。母親は最も多い行動で「仕事を自宅に持ち帰る」と「情報機器を利用して自宅から仕事のメールを確認

する」のいずれも 15.6%であり、週数回以上はそれぞれ 7.4%、10.5%と 1 割前後であった。父親と比較してその割合は半分以下であるが、情報機器を利用した仕事メールの確認は、母親側でも同様に日常的な所定外労働になりつつあるといえよう。

つづいて、所定外労働と情報機器の利用に関する 9 項目について、その頻度を「常時」、「日に数回」、「日に 1 回」、「ほぼ毎日」、「週に数回」、「月に数回」、「年に数回」、「以前はしていたが今はしていない」、「したことがない/できない」の選択肢で回答を求めているが、頻度が高い順に 7 点から 1 点、「以前はしていたが今はしていない」、「したことがない/できない」はいずれも 0 点で得点化し、その平均値を算出した。9 項目の行動頻度得点を父親回答および母親回答全体、職位別、第 1 章で分析したワーク・ファミリー・コンフリクト有無別⁴で集計し、分析した結果を示す（表 3.3.1、表 3.3.2、表 3.3.3、表 3.3.4、表 3.3.5、表 3.3.6、表 3.3.7、表 3.3.8、表 3.3.9）。

職位別では父親回答で、「仕事を自宅に持ち帰る」（表 3.3.1）のみ、0.1%水準で有意差がみられたが、それ以外の 8 項目では有意差はみられなかった。母親回答では 9 項目全てにおいて 0.1%で有意差があり、フルタイム管理職以上で高かった。父親側ではその頻度は職位があるほど高いが、所定外労働や情報機器を利用した所定外時空間での仕事は、職位に関係なくなされている傾向がある。母親ではフルタイム一般職およびパートタイム・アルバイトではほとんど所定外労働はなされておらず、職位があることで、所定外の仕事や情報機器を利用して所定外労働をこなしたりしやすくなる傾向があることが示唆された。残業などの定めのない管理職は、所定外労働が比較的日常的に存在する可能性があるが、父親回答による職位別の結果を鑑みると、特に男性において、情報機器が家庭など所定外時空間以外に仕事をする機会を与えている可能性が示唆された。

⁴ 本調査で使用した WFC10 項目への回答を単純加算し（「あてはまる」1 点～「あてはまらない」0 点）、算出したスケール（尺度）を使用し、得点の合計が 0 点を「WFC なし群」、1 点から 5 点を「WFC 低群」、6 点から 10 点を「WFC 高群」の 3 群にグループ分けを行い、分析した。

表 3.3.1 自宅への仕事持ち帰り 頻度得点結果

仕事を自宅に持ち帰る					
全体/職位	平均	SD	検定	N	
父全体	1.20	1.86		398	
父職位	フルタイム管理職以上	2.31	t(396)=6.60 ***	86	
	フルタイム一般職	0.90		1.55	312
母全体	0.47	1.34		639	
母職位	フルタイム管理職以上	1.77	F(2, 636)=11.13	13	
	フルタイム一般職	0.60		1.50	319
	パートタイム・アルバイト	0.28		1.02	307
WFC	平均	SD	検定	N	
父	なし	0.69	F(2, 395)=7.10	68	
	低	1.04		1.72	172
	高	1.60		2.05	158
母	なし	1.38	F(2, 636)=11.64	152	
	低	0.39		1.33	324
	高	0.13		0.82	163

※分析母数は育休中および仕事で情報機器を利用していない人を除く回答数。検定について、2 群間の判定は t 検定、3 群間の判定は Tukey 検定による。*** p<.001。

※検定内のアルファベット符号は、多重比較の結果、異符号間に 5%水準の有意差があることを示す。

表 3.3.2 自宅での情報機器を利用した仕事 頻度得点結果

自宅で情報機器を利用して仕事をする					
全体/職位	平均	SD	検定	N	
父全体	1.34	2.03		398	
父職位	フルタイム管理職以上	2.38	t(396)=5.57 n. s.	86	
	フルタイム一般職	1.06		1.83	312
母全体	0.51	1.48		639	
母職位	フルタイム管理職以上	1.77	F(2, 636)=23.03	13	
	フルタイム一般職	0.60		1.50	319
	パートタイム・アルバイト	0.28		1.02	307
WFC	平均	SD	検定	N	
父	なし	0.88	F(2, 395)=3.74	68	
	低	1.25		2.03	172
	高	1.65		2.12	158
母	なし	0.18	F(2, 636)=10.69	152	
	低	0.46		1.35	324
	高	0.93		1.91	163

※分析母数は育休中および仕事で情報機器を利用していない人を除く回答数。検定について、2 群間の判定は t 検定、3 群間の判定は Tukey 検定による。*** p<.001, n. s. 有意差なし。

※検定内のアルファベット符号は、多重比較の結果、異符号間に 5%水準の有意差があることを示す。

表 3.3.3 業務用パソコンの自宅持ち帰り 頻度得点結果

会社から貸与された業務用のパソコンを自宅に持ち帰る					
		平均	SD	検定	N
父全体		1.08	1.99		398
父職位	フルタイム管理職以上	1.85	2.37	t(396)=4.13	86
	フルタイム一般職	0.87	1.82		312
母全体		0.29	1.16		639
母職位	フルタイム管理職以上	1.38	2.36	F(2, 636)=10.14	13
	フルタイム一般職	0.39	1.33		319
	パートタイム・アルバイト	0.13	0.82		307
WFC		平均	SD	検定	N
父	なし	0.59	1.61	F(2, 395)=7.10	68
	低	0.87	1.78		172
	高	1.52	2.26		158
母	なし	0.05	0.57	F(2, 636)=6.50	152
	低	0.28	1.15		324
	高	0.52	1.51		163

※分析母数は育休中および仕事で情報機器を利用していない人を除く回答数。検定について、2 群間の判定は t 検定、3 群間の判定は Tukey 検定による。*** p<.001, n. s. 有意差なし。

※検定内のアルファベット符号は、多重比較の結果、異符号間に 5%水準の有意差があることを示す。

表 3.3.4 業務用スマートフォンの自宅持ち帰り 頻度得点結果

会社から貸与された業務用のスマートフォンを自宅に持ち帰る					
		平均	SD	検定	N
父全体		1.25	2.36		398
父職位	フルタイム管理職以上	2.09	2.73	t(396)=3.78	86
	フルタイム一般職	1.02	2.20		312
母全体		0.40	1.44		639
母職位	フルタイム管理職以上	1.38	2.36	F(2, 636)=15.72	13
	フルタイム一般職	0.39	1.33		319
	パートタイム・アルバイト	0.13	0.82		307
WFC		平均	SD	検定	N
父	なし	0.49	1.60	F(2, 395)=8.85	68
	低	1.05	2.25		172
	高	1.80	2.62		158
母	なし	0.09	0.80	F(2, 636)=4.56	152
	低	0.48	1.62		324
	高	0.52	1.51		163

※分析母数は育休中および仕事で情報機器を利用していない人を除く回答数。検定について、2 群間の判定は t 検定、3 群間の判定は Tukey 検定による。*** p<.001, n. s. 有意差なし。

※検定内のアルファベット符号は、多重比較の結果、異符号間に 5%水準の有意差があることを示す。

表 3.3.5 情報機器を利用した所定外就労 頻度得点結果

所定の就業時間以外の時間に、会社以外の場所で、情報機器を利用して仕事をする						
		平均	SD	検定	N	
父全体		1.26	2.05		398	
父職位	フルタイム管理職以上	2.49	2.51	t(396)=6.62	86	
	フルタイム一般職	0.92	1.77		n. s.	312
母全体		0.44	1.36		639	
母職位	フルタイム管理職以上	2.23	3.09	F(2, 636)=22.19	13	
	フルタイム一般職	0.63	1.56		b	319
	パートタイム・アルバイト	0.16	0.84		a ***	307
WFC		平均	SD	検定	N	
父	なし	1.16	2.24	F(2, 395)=6.04	68	
	低	0.91	1.75		a	172
	高	1.68	2.20		ab ***	158
母	なし	0.04	0.28	F(2, 636)=13.13	152	
	低	0.44	1.39		a	324
	高	0.81	1.76		b ***	163

※分析母数は育休中および仕事で情報機器を利用していない人を除く回答数。検定について、2 群間の判定は t 検定、3 群間の判定は Tukey 検定による。*** p<.001, n. s. 有意差なし。

※検定内のアルファベット符号は、多重比較の結果、異符号間に 5%水準の有意差があることを示す。

表 3.3.6 自宅での仕事のメール確認 頻度得点結果

情報機器を利用して自宅から仕事のメールを確認する						
		平均	SD	検定	N	
父全体		1.52	2.21		398	
父職位	フルタイム管理職以上	2.74	2.54	t(396)=6.05	86	
	フルタイム一般職	1.18	1.99		n. s.	312
母全体		0.61	1.62		639	
母職位	フルタイム管理職以上	2.23	3.09	F(2, 636)=35.16	13	
	フルタイム一般職	0.63	1.56		b	319
	パートタイム・アルバイト	0.16	0.84		a ***	307
WFC		平均	SD	検定	N	
父	なし	1.18	2.18	F(2, 395)=3.51	68	
	低	1.33	2.13		a	172
	高	1.87	2.27		ab *	158
母	なし	0.27	1.10	F(2, 636)=6.24	152	
	低	0.61	1.63		a	324
	高	0.91	1.91		ab ***	163

※分析母数は育休中および仕事で情報機器を利用していない人を除く回答数。検定について、2 群間の判定は t 検定、3 群間の判定は Tukey 検定による。*** p<.001, p<.05, n. s. 有意差なし。

※検定内のアルファベット符号は、多重比較の結果、異符号間に 5%水準の有意差があることを示す。

表 3.3.7 休日や休暇中の情報機器を利用した仕事情報アクセス 頻度得点結果

休日や休暇中に、情報機器を利用して会社のメールや仕事の情報にアクセスする					
	平均	SD	検定	N	
父全体	1.44	2.18		398	
父職位	フルタイム管理職以上	2.87	t(396)=7.33	86	
	フルタイム一般職	1.04			n. s.
母全体	0.48	1.43		639	
母職位	フルタイム管理職以上	1.69	F(2, 636)=14.91	13	
	フルタイム一般職	0.70			b
	パートタイム・アルバイト	0.20			a ***
WFC	平均	SD	検定	N	
父	なし	1.25	F(2, 395)=2.41	68	
	低	1.24			n. s.
	高	1.73			
母	なし	0.30	F(2, 636)=4.57	152	
	低	0.42			a
	高	0.75			ab ***
				324	
				163	

※分析母数は育休中および仕事で情報機器を利用していない人を除く回答数。検定について、2 群間の判定は t 検定、3 群間の判定は Tukey 検定による。*** p<.001, n. s. 有意差なし。

※検定内のアルファベット符号は、多重比較の結果、異符号間に 5%水準の有意差があることを示す。

表 3.3.8 個人端末による会社情報アクセス 頻度得点結果

個人所有の情報機器端末（パソコンやスマートフォン、タブレット）から、 会社のメールや情報にアクセスする					
	平均	SD	検定	N	
父全体	1.33	2.21		398	
父職位	フルタイム管理職以上	2.73	t(396)=7.04	86	
	フルタイム一般職	0.95			n. s.
母全体	0.54	1.50		639	
母職位	フルタイム管理職以上	1.69	F(2, 636)=16.87	13	
	フルタイム一般職	0.70			b
	パートタイム・アルバイト	0.20			a ***
WFC	平均	SD	検定	N	
父	なし	1.12	F(2, 395)=1.72	68	
	低	1.19			n. s.
	高	1.58			
母	なし	0.18	F(2, 636)=8.63	152	
	低	0.54			a
	高	0.88			b ***
				324	
				163	

※分析母数は育休中および仕事で情報機器を利用していない人を除く回答数。検定について、2 群間の判定は t 検定、3 群間の判定は Tukey 検定による。*** p<.001, n. s. 有意差なし。

※検定内のアルファベット符号は、多重比較の結果、異符号間に 5%水準の有意差があることを示す。

表 3.3.9 業務用端末での私的コミュニケーション 頻度得点結果

会社から貸与された業務用の情報機器端末（パソコンやスマートフォン、タブレット）で、 家族や友人などと私的なコミュニケーションや連絡をする						
		平均	SD	検定	N	
父全体		0.84	1.81		398	
父職位	フルタイム管理職以上	1.79	2.40	t(396)=5.69	86	
	フルタイム一般職	0.58	1.52		n. s.	312
母全体		0.28	1.10		639	
母職位	フルタイム管理職以上	1.15	2.30	F(2, 636)=10.69	13	
	フルタイム一般職	0.42	1.32		b	319
	パートタイム・アルバイト	0.11	0.65		a ***	307
WFC		平均	SD	検定	N	
父	なし	0.62	1.72	F(2, 395)=9.12	68	
	低	0.51	1.29		a ***	172
	高	1.31	2.20		b	158
母	なし	0.08	0.57	F(2, 636)=6.89	152	
	低	0.26	1.06		a ***	324
	高	0.53	1.46		b	163

※分析母数は育休中および仕事で情報機器を利用していない人を除く回答数。検定について、2 群間の判定は t 検定、3 群間の判定は Tukey 検定による。*** p<.001, n. s. 有意差なし。

※検定内のアルファベット符号は、多重比較の結果、異符号間に 5%水準の有意差があることを示す。

WFC の有無別では、父親回答 6 項目、母親回答 9 項目全てにおいて、WFC なし群および WFC 低群と高群との間に 0.1%水準で有意差があり、WFC 高群の行動頻度得点が高かった。仕事が家庭などの所定外の時空間に侵入することは、WFC を高める可能性がある。特に、「自宅で情報機器を利用して仕事をする」(表 3.3.2)、「所定の就業時間以外の時間に、会社以外の場所で、情報機器を利用して仕事をする」(表 3.3.5)、「情報機器を利用して自宅から仕事のメールを確認する」(表 3.3.6)、「休日や休暇中に、情報機器を利用して会社のメールや仕事の情報にアクセスする」(表 3.3.7)、「個人所有の情報機器端末（パソコンやスマートフォン、タブレット）から、会社のメールや情報にアクセスする」(表 3.3.8) といった、仕事が就業時空間外に持ち込まれる行為において、WFC 高群で得点が高く、低群およびなし群との得点結果に開きがある傾向があった。仕事領域に家庭が持ち込まれることよりも、仕事が仕事以外の時空間に持ち込まれることがコンフリクトを高めている可能性がある。

行動頻度得点結果の傾向から、職位が上がるほど、また WFC が高いほど、所定外労働や情報機器を利用した就業時空間外での仕事をしているといえよう。

3.4 工作中的私的 ICT 利用

情報機器普及以前の職場では、基本的な仕事の行動やコミュニケーションは、職場に向いて行われ、よほど緊急な要件がない限り、私的なコミュニケーションは規範的に許容

されていなかった。情報機器やインターネットは、仕事の時空間に私的コミュニケーションや社会接触を持ち込むことを可能にし、職場や組織の規範を揺るがすとともに、勤労者に新たなネットワークと親密性の行動様式をもたらしている (Broadbent, 2016)。しかしながら、仕事と家庭の両立のためには、子どもの発熱などの緊急時や想定外の仕事のトラブル時などのみならず、日常から家族や支援してくれる近親者とのコミュニケーションが必要不可欠であろう。そこで本節では、職場におけるICTを用いた私的コミュニケーションの実態を明らかにする。

Q33では、職場での情報機器を利用した私的なコミュニケーションに関する5項目について、その頻度を14段階で尋ねている。設問はChesley & Johnson (2015)を参考にし、日本でのICTおよびSNS利用状況に合わせて修正した。質問文は「あなたは、仕事や勤務時間中に、情報機器やインターネット、SNSなどの情報メディアを、どの程度の頻度で利用しますか。あてはまるものをそれぞれお選びください。」である。これらの質問項目について、現在していない（「以前はしていたが今はしていない」、「したことがない/できない」）人を除く、現在各項目の行為をしている人を、週に数回以上と週に数回未満の行為頻度に分けて集計した結果を示す（図3.4.1）

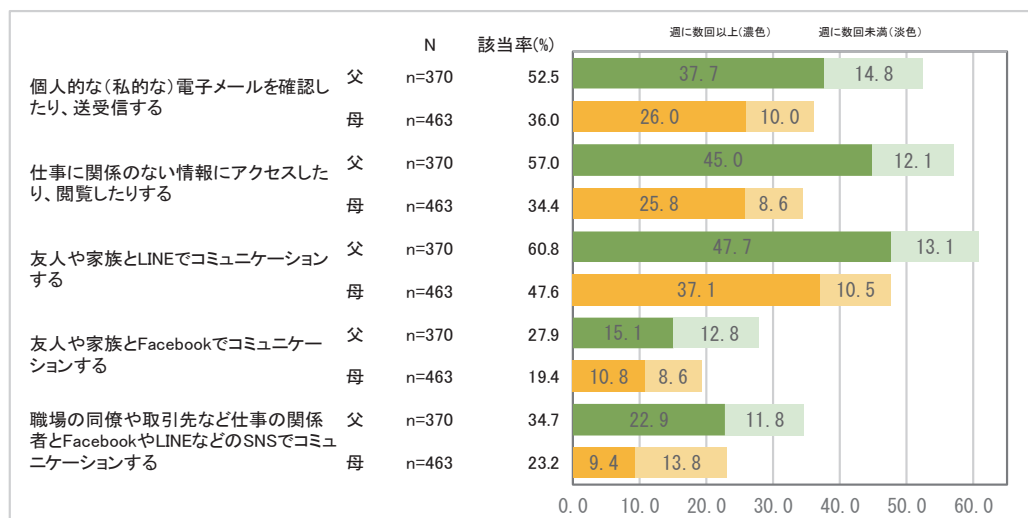


図 3.4.1 職場での私的 ICT 利用行動(単位：%)

※分析母数は育休中および仕事で情報機器を利用していない人を除く回答数。

5項目全てにおいて、母親より父親で該当比率が高かった。最も多い職場での私的コミュニケーション行動は、「友人や家族とLINEでコミュニケーションする」であり、父親で60.8%、母親で47.6%と約半数以上の人が、職場で家族や友人とLINEでのコミュニケーション

ョンをしている。同様のコミュニケーションツールおよび SNS である Facebook に対し、父親および母親ともに約 2 倍の該当比率であった。次いで、「仕事に関係のない情報にアクセスしたり、閲覧したりする（父親 57.0%、母親 34.4%）」、「個人的な（私的な）電子メールを確認したり、送受信する（父親 52.5%、母親 36.0%）」であった。仕事と家庭の両立に奔走する共働きの父親、母親にとって、ICT を用いて職場から家族や友人とコミュニケーションすることは、家事育児のやりくりやタスク遂行、その両立を支えるための基盤になっているのであろう。職場での ICT を利用した家族や友人とのコミュニケーションなど、職場での私的なコミュニケーションは日常的な行為になりつつあるといえよう。

つづいて、同 5 項目について、各設問で頻度が高い順に 14 点から 1 点、「以前はしていたが今はしていない」、「したことがない/できない」はいずれも 0 点で得点化し、その平均値を算出し、父親回答および母親回答全体、職位別、第 1 章で分析したワーク・ファミリー・コンフリクト有無別⁵で集計し、分析した結果を示す（表 3.4.1）。

最も利用行動が多かった「友人や家族と LINE でコミュニケーションする」は職位別、WFC 有無別のいずれにおいても有意差がなく、職位や WFC に関連なくなされているが、父親回答では WFC 高群の得点が他の群と比較してやや高い結果となった。父親回答では、「友人や家族と LINE でコミュニケーションする」を除く 4 項目全てにおいて、職位で 0.1%水準の有意差がみとめられ、**概してフルタイム管理職ほど、職場での私的 ICT 利用やコミュニケーションを行っている結果となった**。裁量度の高い管理職は、一般職と比較して職場での私的コミュニケーションがやりやすいことが理由に考えられる。母親回答では、「個人的な（私的な）電子メールを確認したり、送受信する」「仕事に関係のない情報にアクセスしたり、閲覧したりする」の 2 項目のみ、職位別の 3 群間で有意差があり、職位が上がるほど得点が高かった。職場での仕事以外の情報アクセスは男性同様、管理職ほど裁量度が高いため比較的やりやすいが、職位がない場合、仕事以外の情報へのアクセスが制限されていたり、本人が非積極的であったりする可能性がある。逆に、**職場での私的コミュニケーションは、職位にかかわらずなされている**といえよう。

⁵ 本調査で使用した WFC10 項目への回答を単純加算し（「あてはまる」1 点～「あてはまらない」0 点）、算出したスケール（尺度）を使用し、得点の合計が 0 点を「WFC なし群」、1 点から 5 点を「WFC 低群」、6 点から 10 点を「WFC 高群」の 3 群にグループ分けを行い、分析した。

表 3.4.1 職場での私的 ICT 利用行動 5 項目 頻度得点結果

	N	個人的な(私的な)電子メールを確認したり、送受信する			仕事に関係のない情報にアクセスしたり、閲覧したりする				
		平均	SD	検定	平均	SD	検定		
父全体	370	5.09	4.65		5.73	4.67			
父職位	フルタイム管理職以上 フルタイム一般職	84 286	6.98 4.54	4.20 4.64	t(368)=4.32 ***	7.48 5.22	3.96 4.74	t(368)=3.98 ***	
母全体	461	4.38	4.56		4.43	4.76			
母職位	フルタイム管理職以上 フルタイム一般職 パートタイム・アルバイト	13 287 161	4.77 4.85 3.52	5.09 4.57 4.40	F(2, 458)=4.55	a a * a	5.69 4.83 3.53	5.27 4.65 4.50	a a * a
父WFC	なし 低 高	64 156 150	4.27 4.62 5.94	4.66 4.73 4.46	F(2, 367)=4.38	a ab * b	5.17 4.80 4.38	4.95 4.80 4.38	F(2, 367)=1.31 n.s.
母WFC	なし 低 高	91 236 134	3.18 4.94 4.22	4.41 4.61 4.44	F(2, 458)=5.15	a ab ** b	2.81 4.81 4.69	4.34 6.74 4.76	a b ** b
		友人や家族とLINEでコミュニケーションする			友人や家族とFacebookでコミュニケーションする				
	N	平均	SD	検定	平均	SD	検定		
父全体	370	6.08	4.69		2.49	3.85			
父職位	フルタイム管理職以上 フルタイム一般職	84 286	6.61 5.93	4.36 4.77	t(368)=1.16 n.s.	4.07 2.03	4.25 3.60	t(368)=4.37 ***	
母全体	461	6.02	4.68		2.26	3.80			
母職位	フルタイム管理職以上 フルタイム一般職 パートタイム・アルバイト	13 287 161	5.00 6.11 5.94	5.24 4.58 4.81	F(2, 458)=0.39 n.s.	3.23 2.29 2.14	4.53 3.80 3.75	F(2, 458)=0.51 n.s.	
父WFC	なし 低 高	64 156 150	5.64 5.78 6.59	4.90 4.74 4.52	F(2, 367)=1.48 n.s.	2.39 1.97 3.08	4.05 3.52 4.03	F(2, 367)=3.22	a a * a
母WFC	なし 低 高	91 236 134	5.27 5.98 6.60	4.87 4.63 4.59	F(2, 458)=2.22 n.s.	1.53 2.02 3.19	3.21 3.66 4.23	F(2, 458)=6.38	a a ** b
		職場の同僚や取引先など仕事の関係者と Facebook や LINE などの SNS で コミュニケーションする							
	N	平均	SD	検定					
父全体	370	3.20	4.23						
父職位	フルタイム一般職 フルタイム一般職	84 286	5.00 2.67	4.63 3.97	t(368)=4.54 ***				
母全体	461	2.38	3.61						
母職位	フルタイム管理職以上 フルタイム一般職 パートタイム・アルバイト	13 287 161	3.85 2.46 2.13	4.62 3.64 3.47	F(2, 458)=1.53 n.s.				
父WFC	なし 低 高	64 156 150	2.67 2.62 4.03	4.16 4.01 4.38	F(2, 367)=4.97	a ab ** b			
母WFC	なし 低 高	91 236 134	1.52 2.31 3.10	3.00 3.61 3.89	F(2, 458)=5.37	a ab ** b			

※分析母数は育休中および仕事で情報機器を利用していない人を除く回答数。検定について、2 群間の判定は t 検定、3 群間の判定は Tukey 検定による。*** p<.001, ** p<.01, * p<.05, n.s. 有意差なし。
 ※検定内のアルファベット符号は、多重比較の結果、異符号間に 5%水準の有意差があることを示す。

WFC 別では、最も該当比率が高かった「友人や家族と LINE でコミュニケーションする」は、父親、母親ともに有意差がなかった。それ以外の項目は、父親では「個人的な(私的な)電子メールを確認したり、送受信する」、「友人や家族と Facebook でコミュニケーションする」、「職場の同僚や取引先など仕事の関係者と Facebook や LINE などの SNS でコミュ

ニケーションする」に有意差がみられ、WFCが高いほど、頻度得点が高かった。母親回答では、「友人や家族とLINEでコミュニケーションする」以外の4項目全てで有意差がみとめられ、概してWFCがある人ほど、頻度得点が高い傾向があった。WFCが高い人ほど、ICTを利用して、公私領域を横断したコミュニケーションや情報アクセスをしているといえよう。

3.5 ICTに対する考えと態度

ICTは仕事と家事の両立や生活に対してどのような存在で、いかなる影響を及ぼしていると考えているのか。ICTに対する考えと態度について、先行研究を参考にし、ICTの利便性認知について、「ICTは私の生活の質を高めてくれる」(Tennakoon, Da Silveira & Taras, 2013)、仕事と生活時間ペースへの悪影響に対する考えとして、「ICTは私の想定以上に業務量を増やしている」および「ICTは私の生活のペースを加速させている」(Chesley, 2010)の2項目、家事育児の両立に対する考えとしてオリジナルで「ICTがなければ、家事育児と仕事の両立は難しい」の計4項目を設定し、2件法で回答を得た。「あてはまる」に回答した比率を父親回答、母親回答それぞれにおいて、全数、職位別、WFC有無別⁶にクロス集計し、 χ^2 検定を行った結果を示す(表3.5.1)。尚、本節の分析母数は育休中を含む、全回答数である。

最も回答比率が多かったものは「ICTは私の生活の質を高めてくれる(父親58.8%、母親45.4%)」であり、ICT利用のポジティブな側面を父親ではおよそ6割弱、母親では5割弱の人が評価していた。また、「ICTがなければ、家事育児と仕事の両立は難しい」も父親、母親ともに3割強の人があてはまると回答し、ICTによる生活へのポジティブな影響を積極的に評価している様子が見えてくる。オンラインショッピングやオンライン上での様々な手続き、家族や友人知人とのコミュニケーションなど、日々の生活においてICTが仕事および家庭で利用され、生活の基盤となっているためだろう。ネガティブな影響に関しては、「ICTは私の生活のペースを加速させている(父親40.7%、母親28.2%)」、「ICTは私の想定以上に業務量を増やしている(父親30.7%、母親14.1%)」となり、仕事への悪影響は母親より父親で認識されていた。生活のペースについては、電子メールやSNSなどでいつでもどこでもメッセージを送りあえることが即時応答性をもたらしたり、スケジュールやネットでの情報をすぐに参照できたりすることが隙間のない時間を生み、生活のペースを加速しているように感じられているのかもしれない。

⁶ 本調査で使用したWFC10項目への回答を単純加算し(「あてはまる」1点～「あてはまらない」0点)、算出したスケール(尺度)を使用し、得点の合計が0点を「WFCなし群」、1点から5点を「WFC低群」、6点から10点を「WFC高群」の3群にグループ分けを行い、分析した。

表 3.5.1 ICT に対する考えと態度(単位：%)

		ICTは私の想定以上に業務量を増やしている	ICTは私の生活の質を高めてくれる	ICTがなければ、家事育児と仕事の両立は難しい	ICTは私の生活のペースを加速させている	N
父全体		30.7	58.8	32.7	40.7	412
父職位	フルタイム管理職以上	46.5	68.6	38.4	46.5	90
	フルタイム一般職	26.3	56.1	31.1	39.1	322
	χ^2 値(df=1)	12.98	4.36	1.63	1.53	
	検定結果	**	*	n. s.	n. s.	
母全体		14.1	45.4	34.3	28.2	824
母職位	フルタイム管理職以上	23.1	53.8	46.2	53.8	17
	フルタイム一般職	18.2	48.6	40.1	33.5	468
	パートタイム・アルバイト	9.4	41.7	27.7	21.5	339
	χ^2 値(df=2)	10.75	3.38	11.58	15.54	
	検定結果	**	n. s.	**	***	
父WFC	なし	11.8	38.2	17.6	25.0	68
	低群	25.0	58.7	25.6	35.5	172
	高群	44.9	67.7	46.8	53.2	158
	χ^2 値(df=2)	29.16	17.06	25.32	0.19	
	検定結果	***	***	***	***	
母WFC	なし	7.2	38.8	21.7	19.7	152
	低群	9.3	41.7	34.0	22.5	324
	高群	30.1	58.9	46.6	47.2	163
	χ^2 値(df=2)	0.47	16.46	0.22	0.40	
	検定結果	***	***	***	***	

※分析母数は全回答数。「あてはまる」回答割合のクロス集計および χ^2 検定結果。*** p<.001, ** p<.01,

* p<.05, n. s. 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

職位別では父親回答において、全ての項目でフルタイム一般職よりフルタイム管理職以上で回答比率が高く、特に「ICTは私の想定以上に業務量を増やしている」および「ICTは私の生活の質を高めてくれる」の項目で有意差がみられ、フルタイム管理職以上で有意に回答比率が高く、フルタイム一般職で有意に回答比率が低い結果となった。母親回答でも職位が上がるほど、全ての項目において回答比率が高く、「ICTは私の生活の質を高めてくれる」以外の全ての項目で有意差がみられた。母親ではフルタイム以上で、ICTに対する利便性およびネガティブな側面の両方においてその影響をより感じやすいといえよう。

WFC有無別では、父親、母親ともに全ての項目において危険率0.1%水準未満で有意差がみとめられ、WFCが高いほど回答比率が高く、特にICT利用のネガティブな影響である「ICTは私の想定以上に業務量を増やしている」「ICTは私の生活のペースを加速させている」において、WFC高群の回答比率はWFCなし群と比較しておよそ2倍以上となっていた。残差分析の結果でも、特に高群で有意に回答比率が高い結果となった。仕事と家庭間での葛藤を抱える人ほど、ICTを積極的に活用して日々の生活でやりくりをしており、その結果、

ICT の利便性も享受しやすいが、特にネガティブな影響をより受けやすいことは詳細に検討していく必要があるだろう。

参考文献

Broadbent, S. (2016). *Intimacy at work: How digital media bring private life to the workplace*. Routledge.

Chesley, N. (2010). Technology use and employee assessments of work effectiveness, workload, and pace of life. *Information, Communication & Society*, 13(4), 485-514.

Chesley, N., & Johnson, B. E. (2015). Technology Use and the New Economy: Work Extension, Network Connectivity, and Employee Distress and Productivity. In Samantha K. Amos & Erin L. Kelly (Eds.) *Work and Family in the New Economy* (pp. 61-99). Emerald Group Publishing Limited.

Greenhaus, J. H., & Beutell, N. J. (1985). Sources of conflict between work and family roles. *Academy of management review*, 10(1), 76-88.

橋元良明・大野志郎・久保隅綾(2018), 乳幼児期における情報機器利用の実態, 『東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編』34号, 印刷中。

Kahn, R. L., Wolfe, D. M., Quinn, R., Snoek, J. D., & Rosenthal, R. A. (1964). *Organizational stress: Studies role conflict and ambiguity*: New York: Wiley.

国立社会保障・人口問題研究所 (2015) 報告書『第5回全国家庭動向調査 現代日本の家族変動』(人口問題調査研究報告資料第33号) (<http://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/data/pdf/chosakenkyu33.pdf>, 2018年1月28日アクセス)

Tennakoon, K. U. S., Da Silveira, G. J., & Taras, D. G. (2013). Drivers of context-specific ICT use across work and nonwork domains: A boundary theory perspective. *Information and Organization*, 23(2), 107-128.

Wajcman, J., Bittman, M., & Brown, J. E. (2009). Intimate connections: the impact of the mobile phone on work/life boundaries. In Goggin, G. and Hjorth, L., (Eds.) *Mobile Technologies: From Telecommunications to Media*. (pp.9-22). Routledge, London.

渡井いずみ, 錦戸典子, & 村嶋幸代. (2006). ワーク・ファミリー・コンフリクト尺度 (Work-Family Conflict Scale: WFCS) 日本語版の開発と検討. *産業衛生学雑誌*, 48(3), 71-81.

吉田悟. (2007). ワーク・ファミリー・コンフリクト理論の検証. *人間科学研究* (文京大学人間科学部), 29, 77-89.

